

第2編 教育を取り巻く現状と課題

○ 人口減少と少子高齢社会の進行

我が国の人口は、2008年（平成20年）の1億2,808万人をピークに急激な減少傾向にあります。

また、我が国の出生率の低下や平均寿命の伸長により、急激に少子高齢社会が進行しております。

本市の人口においても、2000年（平成12年）までは増加傾向にありましたが、それ以降は減少傾向が続き、2015年（平成27年）の国勢調査では、34,995人となり、今後もさらなる減少が避けられない状況にあります。

このように、人口減少や少子高齢社会が進行するなか、地域産業を支える担い手の不足や地域コミュニティの活力低下など、市民生活に様々な影響を及ぼしています。

○ 社会・経済状況の変化

経済や社会のグローバル化と情報通信技術の急激な進展に伴い、人・物・情報などの流れが国境を越えて流動化するなど、国際社会は、これまでにない多くの課題に直面しています。

同時に、地球規模の環境問題やエネルギー資源、経済などの問題も深刻化しています。

また、今後は、AI（人工知能）、IoT（モノのインターネット）、ロボット技術、ビッグデータの活用が飛躍的に進歩しつつあり、これらが産業のありようを大きく変化させるだけでなく、日常生活や暮らし方などの技術革新が一層進展し、社会を大きく変えていくことが予想されています。

このような社会において、子どもたちが積極的にチャレンジする姿勢や協働して課題を解決していく力、そして様々な情報を正しく理解し、新たな価値の創出につなげていくことが重要となります。

○ 学校、家庭、地域等との連携

地域を支える担い手が不足するなか、学校や地域、家庭の教育力の低下が懸念されています。

また、核家族化の進行や共働き家庭の増加などによる家族形態の変化とともに、価値観やライフスタイルの多様化、地域や人とのつながりの希薄化、さらには、家庭が抱える問題の複雑化等、より一層地域住民の知識や経験を子どもたちの学びに活かすことが重要となります。